

SPSS Ver28コンピュータライセンス手順(Windows)

1. 初期設定(学外利用の最大可能日数の変更)

学外利用時の最大可能日数を予め既定値の7日間から30日間に変更しておく

①[スタートメニュー]-[Windowsアクセサリ]-[メモ帳]を**右クリック**し[その他]-[**管理者として実行**]

②メモ帳の[ファイル]-[開く]で

右下の「テキスト文書(*.TXT)」を「すべての文書(*.*)」に変更し

C:\Program Files\IBM\SPSS Statisticsフォルダの「commutelicense.ini」ファイルを開く

③CommuterMaxLifeの値を**7から30に書き換えて上書き保存**

【注意】・最大可能日数の変更は一度行くと30日で保持される

・30日を超える設定は無効

・commutelicense.iniの他の設定は変更しないこと

```
[Commuter]
DaemonHost=133.92.2.49
Organization=IBM
CommuterMaxLife=7
[Product]
VersionMajor=28
```



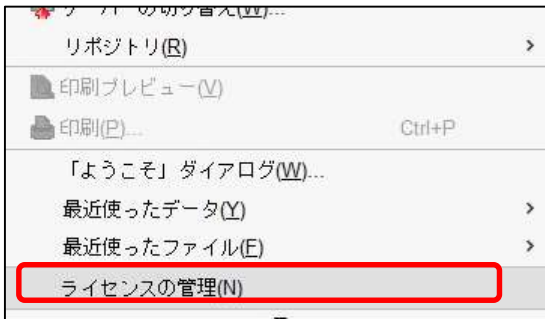
2. 学外利用手続き

PCが学内ネットワークに接続された状態で行う

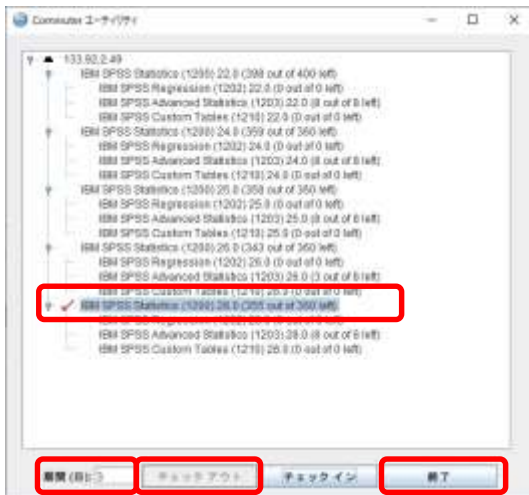
①スタートメニューから「IBM SPSS Statistics」を起動

②SPSSの[ファイル]メニューから「ライセンス管理」を選択

③ライセンス管理で「Commuterユーティリティツールの起動」を選択



- ④「IBM SPSS Statistics 1200 28.0」を選択後「チェックアウト」を選択
その際、期間の初期値は3日のため利用期間に応じ最大30日まで変更可能
学外利用が可能になると赤いチェックマークが付くので「終了」を選択
- ⑤「Advanced Statistics」モジュールを学外利用する場合は同様に行う
学外利用数が**上限に達するとエラーコード77になり学外利用手続きはできない**
- ⑥IBM SPSS Statisticsの再起動で「再起動」を選択することで学外利用が適用される
【注意】学外利用手続き後は学内で利用する場合も利用できるモジュールが学外利用手続きの範囲に制限される
学内で全てのモジュールを使用したい場合は3. 学外利用の解除を 実施する



3. 学外利用の解除

学外利用期間内に利用が終了した場合はPCを学内ネットワークに接続し
「チェックイン」を行うことで学外利用が解除される

学外利用期間が過ぎた場合は自動的に解除されるため操作は不要

- ①スタートメニューから「IBM SPSS Statistics」を起動し、SPSSの[ファイル]メニューから
「ライセンス管理」を選択、ライセンス管理で「Commuterユーティリティツールの起動」を選択
- ②「IBM SPSS Statistics 1200 28.0」を選択後「チェックイン」を選択
赤いチェックマークが消えたのを確認し「終了」を選択
- ③「Advanced Statistics」モジュールを学外利用していた場合は同様に行う
- ④ IBM SPSS Statisticsの再起動で「再起動」を選択することで学外利用が解除される

